



居行子

五

45
1421
5止



門 45  
號 1421  
卷 5

信天圖書

二麻

居行子

子卷之五

目錄

俗文鬼神論

奢乃辨

夜話の三笑

早稲田大學圖書館  
第2/6.16  
藏書

或問曰鬼神の事... 俗文鬼神論... 居行子卷之五

居行子卷之五

俗文鬼神論

或問曰鬼神の事... 俗文鬼神論... 居行子卷之五





こまを杜如の地より灌ぐはく冥然の中より少くも  
 物のつこまを便れり。はくいなる名高れ。賢聖の人々も  
 吾祖宗よりざる人ありしをばもふ。いふも親念至誠  
 をはく。ゆはひるも。祖宗の靈をばもふ。いふもやま  
 わる。こまをの護り。

又問曰鬼神の天地陰陽の妙用と問ぐ。人死んて天に依り  
 無心無形なるや死の良霄死ん鄭子禱し彭生死て裏王  
 禱し將門死ん其靈はく。その類和漢よりたれり。多死  
 も皆淫とす。答曰此等三種の死あり。夫人是理を得  
 てけり。是死より順え終るや。と。竟死たり。升り。敬。と。氣

と作。體魄地より帰し。土と化するもの。と。その天命。いまだ  
 得る所の理は。非余に。遠に死するや。その氣凝  
 て。と。憤然。人より觸る。害とす。す。ま。わ。り。と。則  
 鬼神のまら。物と。其死者あり。尸骸。僅し。出。せ。を  
 う。その。その。教。せ。る。の。形。を。わ。り。と。靈。と。す。す  
 あり。と。ま。り。月。の。ま。り。自。物。は。消。滅。す。る。は。新。事。也。火。消  
 る。と。た。れ。の。煙。う。へ。ほ。す。と。ま。り。消。え。る。其。儘。より。ま。げ。く  
 煙。を。け。り。温。れ。も。増。く。冷。む。る。と。り。れ。り。と。ま。り。一。注  
 一の。と。和。漢。も。非。余。に。僅。し。死。る。人。後。百。を  
 さい。と。其。靈。と。わ。り。と。害。を。せ。り。と。い。は。せ。り。と。

居行五十五

四







陽気あり  
地いたる古  
身位たりし  
こけい  
正山各  
陰多き地  
りぬあり  
鬼怖るる  
あり

かゝるく。午の疑ひ畏り申す。佐異けず。事行りてその  
うら。かゝるく。あやむ。精神疲倦。百脈濶く。すまじ。  
無形。うら。も有形。と。人の。その。わら。その。も。ま。  
公神後。く。ん。ま。形。後。崩。此。多。の。人。と。畏。佐。の。後。  
す。ま。ま。は。り。と。ま。ま。と。り。之。古。戦。場。鬼。哭。す。乃。驚。死。  
者。の。言。ま。わ。ら。る。ま。ま。か。く。陽。気。乃。は。り。と。り。と。り。  
古。戦。場。の。死。者。の。魂。依。の。れ。い。う。ら。や。その。さ。め。れ。ど。く。  
は。と。い。味。つ。ぬ。ま。ま。う。り。  
又。同。回。去。る。ら。ど。れ。い。草。双。紙。よ。ら。と。この。鬼。等。乃。驚。  
何。多。の。ま。め。答。曰。立。春。節。方。の。夜。多。と。ぬ。鬼。と。り。出。り。と。

つ。い。こ。ま。新。年。の。陽。氣。と。申。入。陽。氣。衰。を。止。め。か。ら。う。り。  
儼。と。も。儼。と。も。つ。ま。は。棟。中。へ。毎。年。除。夜。に。追。儼。り。儀。式。  
の。う。り。其。始。人。皇。四。十。二。代。文。武。天。皇。の。慶。雲。元。年。二。月。  
始。此。多。下。夜。疾。人。は。流。布。百。性。多。く。死。す。故。に。土。年。を  
作。り。好。く。追。儼。の。儀。式。の。り。う。り。鬼。と。り。陰。の。割。り。順。の  
和。名。抄。に。於。通。陰。者。の。轉。う。り。の。古。今。集。に。ゆ。の。名。と。う。り。  
て。牽。牛。子。と。け。ま。ぐ。蘭。と。ら。ま。と。り。は。ご。い。う。り。故。に。於。通。  
ハ。陰。の。ま。う。り。取。酒。麴。童子。黒。塚。の。鬼。う。り。の。好。い。深。山。曠。原。に  
住。む。人。類。ま。ま。と。り。者。共。也。童子。牽。牛。丹。後。州。大。江。山。ま。ま。し。  
盜。賊。の。張。手。う。り。白。猿。傳。し。書。く。陽。統。と。り。ま。ま。し。一。面。白。





或ハ盜賊の難疾病の者らるゝのわきまありと云ふ小川の母親  
 をせしむる。毎日く祈願せしむる。多岐の御礼は何とせしむ  
 る。或ハ何れも寄附する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 せんえごがの歌うらやま。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 とのうらやまを御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 願ふの御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 むく。願ふの御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 ろ。願ふの御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 の。願ふの御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 朱の世に人とする。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。

とを祈る。祈禱をせしむ。願ふをせしむ。願ふをせしむ。願ふをせしむ。  
 入魂の者。世に人とする。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 わる。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 六根清浄の御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 わる。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 わる。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 中を御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 を祈る。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。  
 同慶する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。御礼する。



うめやうらうらうと天の公るや神のさるや公自捨る  
 如此くの斯きの目にはらうと思ふとすも天罰神罰ある  
 道にまはる善事をすもその身の損らるるもさういふ  
 かなさうらわのまも神もさかしく人別乃孝行を  
 まもたはにやんやんいんやんいんやんやんやんやんやん  
 やうらまをち今和漢ともにはらるるまもその出かすひの神  
 ようらまをち今和漢ともにはらるるまもその出かすひの神  
 とせぬぐもまも道を得るもそのまもそのまもそのまも  
 慈著く代返をまもるるまもそのまもそのまもそのまも  
 儒のまもるるまもそのまもそのまもそのまもそのまも

ありもわりありもわりの善行もすも其教のありもわりあり  
 悪人のすも早業天罰をすもそのありもそのありもそのありも  
 わり和漢の國まもすもそのありもそのありもそのありも  
 らうらまをち今和漢ともにはらるるまもそのまもそのまも  
 事うらまをち今和漢ともにはらるるまもそのまもそのまも  
 因果業法のまもそのまもそのまもそのまもそのまも  
 命もまもるるまもそのまもそのまもそのまもそのまも  
 うけの万物をすもそのまもそのまもそのまもそのまも  
 まもるるまもそのまもそのまもそのまもそのまもそのまも  
 まもるるまもそのまもそのまもそのまもそのまもそのまも



矜夸各鄙番也。和邦にては、北条時頼、青砥大虎、河内頼之、  
 楠正成等のどれた人。唐土にては、袁孝、禹湯、文武周公の勿論の  
 事。唐土、宋、齊、晏子、董仲舒、魏徵等の如き。治世治國の政を  
 人々行ひて、徳教をまらば、飛つては、宋、紂、或は周、幽王、源實朝、北条  
 高時、高師直、師泰等のどれた家國を失ひ、身をとせり。今、  
 名を修矜、夸るる事、とて、和後、名、其、史、ま、り、ん、考、く  
 るべし。唐土の事、らう、は、れ、ぬ。和邦、上、古、人、王、乃、を、り、ん、神、武  
 の、ら、う、と、唐、民、元、居、野、慶、上、古、の、遺、風、抄、り、わ、り、た、る、と、ん、  
 て、抄、も、果、は、任、た、り、す、し、是、習、惟、常、と、の、信、然、子、信、を、之、の  
 政、降、り、と、た、人、は、皆、迹、を、お、わ、り、た、ら、う、と、ん、山、ま、ら、う、と、ん、た、ら、う、山、在



穴田舎、あつた、の、こ、ま、路、上、古、を、唐、せ、ぬ、の、す、ら、う、が、抄、り、わ、り、と、ん、  
 り、ら、う、り、如、此、の、事、を、ら、う、の、雙、ふ、ら、う、と、ん、と、ま、ら、う、と、ん、神、武  
 より、今、ま、ら、う、と、ん、凡、二、千、四、百、有、餘、多、を、經、歴、平、ん、ん、ん、ん、  
 とい、け、ぬ、事、華、夷、の、事、を、の、と、く、あ、ら、う、り、び、し、の、家、長、か、ん、  
 とい、ら、う、と、ん、ま、ら、う、と、ん、今、ま、ら、う、と、ん、あ、ら、う、と、ん、ま、ら、う、と、ん、  
 如此、華、夷、の、事、を、の、と、く、信、長、信、玄、の、以、て、清、濁、を、  
 とい、ら、う、と、ん、長、介、小、つ、と、ん、ま、ら、う、と、ん、二、味、綿、も、一、向、ま、ら、う、と、ん、  
 終、二、百、年、を、ら、う、と、ん、以、前、の、事、を、ま、ら、う、と、ん、か、の、と、く、今、下、氏、一、日  
 とい、ら、う、と、ん、ま、ら、う、と、ん、ぬ、本、綿、も、さ、ら、う、と、ん、久、保、年、中、ま、ら、う、と、ん、其、後、日、を、  
 朝鮮、の、洪、武、二、十、二、年、大、元、の、後、ま、ら、う、と、ん、東、國、通、使、よ、り、出、る、也。





おしやうとさふくつふまじやうくちまて上のあまふことおぼし  
 て小者下人せんり竹の皮やんは世にまきもけりもはなや  
 洒落てまゝ男女たよるまのの戯場をうやへ不似戀の意を  
 う。武家物如匠者等のとある或は富者侍の町人のいふ香  
 花の茶の湯杯と身不似戀の乃をうとを費す。若乃  
 沙汰多し。下賤の者ともまの布風をまきとさし高内あつ  
 身方の又まきあか出まの紙子編子の衣服とさう。うら  
 ぶらぶのまき。若もまのまき。まきまのまき。まきまのまき  
 を加へおとす。まきまはまの家の所あえの園のまき  
 うとまのまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

うをささるまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

多き貧賤の者もけり。四民の内へ同格めといふおまき  
 かり初は出にもまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

大名諸侯人もこれ世とらまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

よわにまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

國々の費用はまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

家業のまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

富貴及び上下ともその費用の不足するまき。まきまのまき。まきまのまき。

をまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

たり下は領土比頭を破のまき。まきまのまき。まきまのまき。まきまのまき。

らんをとり柄とて圓を掠ても。若曲の富と云ふんをとの工  
 ましとらふも。若何より出や。上下各債物のあつたるは。  
 其身の素と信じてをせざるより。當時何なる地も。  
 債物をいざる所も。さうも。あつた債物といわぬ。各各番也。  
 恤しめざる。せむら。あつた。己の身分の素と信じて。真  
 の債物と云ふ。債物の債物の地なるらんが何より。くても。  
 債物と云ふ。さうも。あつた。家園も。はさむ。債物も。  
 て。さうも。あつた。番番にても。負債のあつた。債物の地も。  
 り。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 も。國用費用のたつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。

論諸子路篇子適衛冉有僕子曰庶矣哉冉有  
 曰既庶矣又何加焉曰富之曰既富矣又何加焉曰教之  
 今既庶之の債も。若著す所の數字夜給さつた。あつた。  
 せ。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 七。債の用も。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 わ。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 半。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 終。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 法。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。  
 意。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。あつた。さうも。







やとらんも大なる處よりしむが。歯牙よかろふに鳴呼  
 百多之万六千日すまんだ。人世七十古来稀なり。吾こそ  
 身唄す近し。齡小きとつるべし。日月をばほくも不往  
 河水をりくも不望。塵埃もく不淨とぬ流く  
 跡す。逝者如斯や。蓋人世の盛衰也。治乱かろく  
 先づ。運數はさぬまじ。阿房宮も一時の火とぬ。漢の  
 うはく。晋より代く。新世もさるものもす。いそんや  
 ちかごや。滄海の二粟なり。つなはらるま。そまて人の  
 とのたたり。隙限もぬ。終始もさ。不可思議といふ  
 や。らん。比つてもまじ。さるま。いそん。その地は五丈あり。

一丈が地球は比すまじ。唐も天竺も日本も。如く一丈の  
 肉も有く。一丈が比すまじ。吾其小く。日本の内六十  
 余州にまじ。一列も日本國は比すまじ。山  
 城乃州の内は八郡あり。一郡も二國は比すまじ。一  
 郡乃内は洛陽あり。華洛も二郡も比すまじ。一  
 華洛の内。縦横の所あり。一町も二華洛は比すまじ。  
 一所の内數十軒の家あり。一家も二所は比すまじ。  
 小く。一團の主。唐土の主もさるものごとく。いそんまじ。  
 さまのまじ。いそんや。一町の主もさる。がま。ま  
 唐も日本もまじ。さるま。一丈が比すまじ。





天うそをあらまのすくね 考を情も夏如とほしひにやえ  
 印うそを字の介他もをやひるまう。昔は相魚の  
 各名をとりてく。天うそをひるまう。昔は相魚の  
 人事をとりてく。天うそをひるまう。昔は相魚の  
 をせしむるまう。天うそをひるまう。昔は相魚の  
 おうそをひるまう。天うそをひるまう。昔は相魚の  
 もかひるまう。天うそをひるまう。昔は相魚の  
 しく荒漢うそをひるまう。天うそをひるまう。昔は相魚の

居行子卷之五大尾

安永四年未上月

平安書林

錢屋重兵衛

錢屋善兵衛

